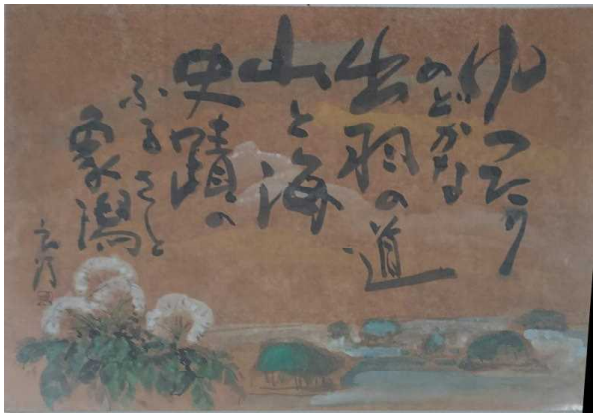
鳥海讃歌

ＧＴＨ通信　第６１号　令和４年２月１５日（火）
校長室より

「ふるさと」の魅力



第６０号に続き、増田良行先生が書いた絵を掲載しました。これは、本校事務室の壁面に掲げられています。

「ゆったり　のどかな　出羽の道
山と海　史蹟の　ふるさと　象潟」

山は満寺い芭蕉ジ語さす。
海、画とがオのと
海面思訪パ授の
鳥海は左われ一業学
はかは象下れたクで習
蚶潟れ松校り、ふり本
満のま芭も国るまを代
て入象蕉国るまを表
尾り江下の俳教す。
で歓の花句材と
つ花が描
い取りを活用
てりて
ふるさと　象潟

日本海側の多くの人々は、眼前の風景を見て、散歩をにがゆはうかがえます。芭蕉の「象潟」に関する記述や司馬遼太郎の「街道をゆく」シリーズに、「秋田県の田心象象潟」の「象潟や雨に西施がねむの花」の句碑が建てられています。

正岡子規は、「象潟や海と山とを一目に見て、何時代代君紛はつのな川たう言う変生え、人うとす石がょ、詠のさま　りし情とは、

2022（令和４）年、自然の力が変化したと言う表現は、景色が変化し、山並みが見える景色は、季節ふる澄む風景で、耳をうまれた人々は、日常生活を送ることに機意識をふるい、心ふと言葉に、目鮮やかな見保ふと込み山海の前に新鮮な気つ存るのみりを見る持めしさ山あが見る風ちるまとはげたる景や山手くもなざ山は山るのざ

ふるさとは、人生の原点であり、ふるさとは、人生の原点であり、ふるさとは、人生の原点であり、